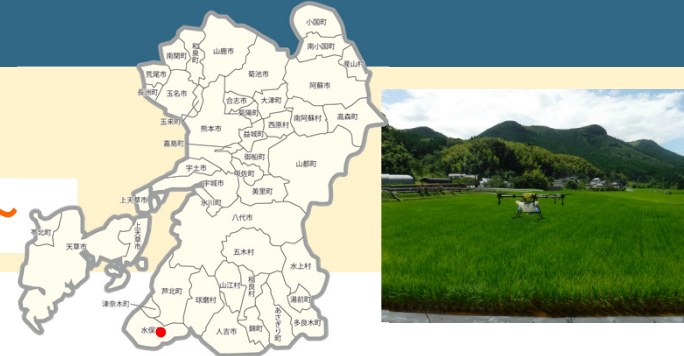


薄原・深川地区 (水俣市)

取り組もう！ いまやるべきこと～農作業受託組合の経営安定を目指して～



ビジョンの概要

地区の課題

- ・一部基盤整備された農地があるが、未整備な農地が多く、農業用水路の老朽化が目立つ。
- ・農業者の高齢化と地区内の担い手が不足。
- ・基幹作物であるたまねぎの収益性が低く、作業効率が悪いために栽培面積の拡大につながらない。

ビジョン策定のプロセス

集落営農組織がなく、
基盤整備が進んでいない

ビジョン

地区の目指す姿

(1) 基盤整備の実施

- ①老朽化した農業用水路の更新。
- ②作業効率の悪い農地を1枚にまとめ、基盤整備に取り組む。

(2) 高単価作物の導入

- ①たまねぎ栽培に機械を導入し、栽培面積を拡大する。
- ②にんにく、そらまめ、きくいもなどの新たな高単価作物にも取り組む。

(3) 担い手の育成

- ①農業用機械の共同利用や農作業受託を行う集落営農組織を立ち上げる。
- ②農業用機械の共同利用や農作業受託、たまねぎなどの栽培面積拡大に必要な農業機械を導入する。



基本的な考え方の形成

集落営農組織を立ち上げることを目標にした。地区の重要な産業である水稻を事業の柱に据え、組合員全員が共有できる目的(事業)を探ることにし、ワークショップも開催した。

まとまる力が成功のカギ

両地区の面積は広く、実情も異なるだけに意見集約が難しかった。営農組織づくりを最優先に掲げ、やる気のある人がまとまって「やってみよう」という結論に達し、動き出した。

成果目標

- ・たまねぎの栽培面積を20a拡大する。
- ・作業受託を行う地域の実情に合った集落営農組織を立ち上げる。

具体策を練り、検証し、解決へ

具体策の一つとして、農業散布用ドローンを導入・稼働させることに。実際にドローンを稼働させて効果を検証。新たな機械の導入、オペレーターの育成・確保などの課題を見つけ出し、解決への道筋をつける。

具体的取り組み

(1) 基盤整備の実施

- 老朽化した農業用水路の更新
→意見が合わず実現しなかった。
- 作業効率の悪い農地を1枚にまとめ、基盤整備に取り組む
→地主と借り手の双方に問題が残る。



(2) 高単価作物の導入

- たまねぎ栽培に機械を導入し、栽培面積を拡大する
→たまねぎは価格低下、病気の発生で継続は困難に。
- にんにく、そらまめ、きくいもなどの高単価作物にも取り組む
→にんにくは、うまくいかなかった。そらまめは、手間はかかるが収益が出るため広がりつつある。
もみ殻を活用した「くん炭」の製造・販売を開始した組合員も。

(3) 担い手の育成

- 農業用機械の共同利用や農作業受託を行う集落営農組織を立ち上げる
→組合を設立し、オペレーター育成に乗り出した。農薬散布用ドローンを使った水稲防除作業をスタート。計15haで散布した。これまでにオペレーター3人を育成し、さらに2人を育成する計画。
- 農業用機械の共同利用や農作業受託、たまねぎなどの栽培面積拡大に必要な農業機械を導入する
→農業機械を導入。安定した生産・受託体制をつくるため、地区外からの若手オペレーターを受け入れる計画。機械の借出しルールを作る。作業受託のチラシなどを配布し、受託組合の経営を安定させる。



成果

成果目標

- ・たまねぎの栽培面積を20a拡大する。
- ・作業受託を行う地域の実情に合った集落営農組織を立ち上げる。

結果

- ・たまねぎの栽培継続は検討中。代替作物を模索中。
- ・令和2年2月に農作業受託組合を設立。

今後に向けて

農作業受託組合の経営安定のため、機械の有効活用とルール作りを進める